



Dashboard の初期セットアップの実行

この章は、次の項で構成されています。

- [Dashboard の初期セットアップの実行 \(1 ページ\)](#)

Dashboard の初期セットアップの実行

Dashboard が要件を満たすようにするには、いくつかの設定作業を実行する必要があります。

VM イメージまたは AWS インスタンスでの基本的なシステム設定

Dashboard の IP アドレスや時刻設定など、基本的なシステム設定を行うには、以下の手順に従います。

1. SSH を使用して AWS インスタンスに接続するか、仮想マシンを使用している場合はハイパーバイザに適したツールを使用して、Dashboard のコンソールに接続します。
2. 仮想マシンを使用している場合は、デフォルトのユーザー名とパスワード (cisco) を使用してログインします。AWS インスタンスの場合は、インスタンスを作成したときに指定したキー ペアおよびユーザー名 (cisco) を使用します。

シスコアカウントのパスワードは、ログイン後すぐに変更する必要があります。新しいパスワードは、文字種が混在した、辞書に載っていない単語を使用した複雑なものする必要があります。

3. 初期設定を行うには、コマンド `sudo config_vm` を入力します。プロンプトが表示されたら、cisco アカウント用のパスワードを入力します。config_vm ユーティリティは、プラットフォーム設定を変更するための一連の手順を表示します。
4. まず、Dashboard のホスト名を変更するよう求められます。ホスト名は、ネットワークで Dashboard を識別するために使用されます。ここで意味のある名前を選択するか、この手順をスキップしてデフォルトのホスト名のままにすることができます。



(注) この手順は、Cisco Business ダッシュボード for AWS では実行できません。

5. 次に、Web サーバーポートを変更するように求められます。ポートがデフォルト値から変更された場合は、ネットワークのファイアウォール設定を変更したり、AWS のセキュリティグループ設定を変更したりすることが必要になる場合もあります。
6. 次に、ネットワーク インターフェイスを設定するように求められます。ここでのオプションは `static` と `dhcp` (デフォルト) です。`static` を選択すると、IP アドレス情報、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバーアドレスの入力を求められます。ここで変更を行うとネットワーク インターフェイスがリセットされます。



(注) この手順は、Cisco Business ダッシュボード for AWS では実行できません。ネットワーク設定を変更するには、AWS の EC2 コンソールを使用します。

7. 次に、Dashboard の時刻を設定するように求められます。時刻同期用の 1 台以上の NTP サーバーを設定することを選択でき (推奨)、タイムゾーンを選択するように求められます。



(注) 使用中のハイパーバイザが VirtualBox で、VirtualBox Guest Additions が VM にインストールされている場合、NTP サービス (timesyncd) は動作しません。

8. 最後に、ブートローダーのパスワードを変更するかどうかを確認するメッセージが表示されます。ブートローダーのユーザー名とパスワードは、システムのブートプロセスを変更するか、失われたオペレーティングシステムのパスワードを回復するために、システムの起動時にコンソールで使用されることもあります。ブートローダーのデフォルトのログイン情報の場合、ユーザー名は `root`、パスワードは `cisco` です。

これらの設定はいつでも変更できます。変更するには、スクリプトを再度実行するか、Web インターフェイスの **[System]** > **[Platform Settings]** を使用します。

Dashboard ユーザーインターフェイスの起動

1. **Google Chrome** や **Microsoft Edge** などの Web ブラウザを起動します。
2. **[Address]** フィールドに Dashboard の IP アドレスまたはホスト名を入力して **Enter** キーを押します。
3. デフォルトのユーザー名とパスワード (`cisco/cisco`) を入力します。Cisco Business ダッシュボード for AWS を使用している場合、デフォルトのパスワードはインスタンス ID です。インスタンス ID は AWS EC2 コンソールで確認できます。
4. **[Login]** をクリックします。シスコアカウントのユーザー名とパスワードを変更するように求められます。新しいパスワードは、長さが 8 文字以上で、3 種類以上の文字クラスを使用している必要があります。
5. **[Next]** をクリックします。Cisco Business ダッシュボードでどのようにデータが使用されるか、どの情報がシスコと共有されるかに関する情報が表示されます。必要に応じて変更を行い、**[Finish]** をクリックします。

Cisco Business ダッシュボード ユーザーインターフェイスが表示されます。

組織の作成（オプション）

組織は、ネットワーク、ユーザー、およびデバイスを、通常は個別に管理するグループに分割するために Cisco Business ダッシュボードで使用されます。各ネットワークまたはデバイスは 1 つの組織に属し、各ユーザーは 1 つ以上の組織を管理できます。組織は、顧客、部門、地域などを表す場合がありますが、組織を使用すると、ネットワークのさまざまな部分を管理できるユーザーをより細かく制御できます。Dashboard のインストール時に、デフォルトで組織が 1 つ作成されます。

新しい組織を作成するには、次の手順を実行します。

1. **[Administration] > [Organizations]** に移動します。
2. テーブルの上部にある **[+]**（プラス）アイコンをクリックします。
3. 組織の名前を指定し、必要な詳細情報を入力します。
4. 新たに検出されたデバイスのデフォルトグループとして使用する必要がある新しいデバイスグループの名前を入力します。新しいデバイスグループが組織とともに作成されます。
5. **[Save（保存）]** をクリックします。
6. 作成する組織ごとに 1～5 の手順を繰り返します。

ユーザーの作成とパスワードの変更

初期状態の Dashboard には、単一のデフォルトユーザー名とパスワードが設定されています。

新しいユーザーを追加するには、以下の手順を実行します。

1. **[Administration] > [Users]** に移動します。
2. **[Users]** テーブルの上部にある **[+]**（プラス）アイコンをクリックします。
3. 表示される **[Add user]** ウィンドウで、作成するユーザーの詳細情報を入力します。このユーザーが、管理者、組織管理者、オペレータ、読み取り専用ユーザーのいずれであるかを指定します。次に、ユーザーのタイプに応じて付与される権限を示します。
 - 管理者：システム管理を含むすべての機能にアクセスできます。
 - 組織管理者：1 つまたは複数の組織の機能すべてにアクセスできますが、**[System]** メニューにアクセスすることはできません。
 - オペレータ：割り当てられた組織内のすべての機能にアクセスできますが、ユーザーを管理することはできません。**[System]** メニューにアクセスすることもできません。
 - 読み取り専用ユーザー：設定は一切変更できず、**[Administration]** メニューへの制限付きアクセスのみが認められています。**[System]** メニューにはアクセスできません。
4. **[Save]** をクリックして新しいユーザーを作成します。

[Users] ページの [User Settings] タブで、パスワードの複雑度についての制限を設定することもできます。新しいパスワードはこれらの制限を満たす必要があります。

パスワードを変更するには、以下の手順を実行します。

1. ユーザーインターフェイスの右上で自分のユーザー名をクリックして、[My Profile] ドロップダウンメニューを表示します。ページが表示されます。
2. [Reset password] リンクをクリックします。
3. 表示されるボックスに、現在のパスワードと新しいパスワードを入力します。
4. [Save] をクリックします。

ライセンスの設定



(注) この手順は Cisco Business ダッシュボード for AWS の従量制課金版には適用されません。

Cisco Business ダッシュボードには Cisco Smart Licensing を使用するためのライセンスが付与されています。初回インストール時、Dashboard は評価モードに設定されます。評価モードでは、最大 10 個のネットワーク デバイスを制限なしで管理でき、10 を超えるデバイスを管理する場合には 90 日以内にライセンスを取得できます。購入したライセンスをシステムに適用するには、ネットワークに関する十分なデバイスライセンスが含まれる Cisco スマートアカウントに Dashboard を関連付ける必要があります。

Dashboard をスマートアカウントに関連付けるには、次の手順を実行します。

1. <https://software.cisco.com> にあるスマート アカウントにログオンします。[License] セクションの下にある [Smart Software Licensing] リンクを選択します。
2. [Inventory] ページを選択し、必要に応じて、選択した仮想アカウントをデフォルトから変更します。[General] タブをクリックします。
3. [New Token...] をクリックして、新しい製品インスタンス登録トークンを作成します。オプションで、説明を追加し、[Expire After] の時間を変更します。[Create Token] をクリックします。
4. トークンの右にある [Actions] ドロップダウンから [Copy] を選択して、新しく作成したトークンをクリップボードにコピーします。
5. Cisco Business ダッシュボード ユーザーインターフェイスに移動し、[Administration] > [License] を選択します。
6. [レジスタ] をクリックし、表示されるフィールドにトークンを貼り付けます。[OK] をクリックします。

Dashboard が Cisco Smart Licensing に登録され、管理対象ネットワークデバイスの数に見合う十分なライセンスが要求されます。使用可能なライセンスが不十分である場合、ユーザーインターフェイスにメッセージが表示され、十分なライセンスを取得するための 90 日の期間が与

えられます。この期間が経過すると、システムの機能が制限されます。ライセンス付与プロセスの詳細については、『[Cisco Business Dashboard Administration Guide](#)』の「*Managing Licenses*」を参照してください。

VM イメージでの組み込み Probe の無効化



(注) この手順は Cisco Business ダッシュボード for AWS には適用されません。

Dashboard の仮想マシンイメージには、Dashboard に対してローカルなネットワーク上のデバイスを管理するための Probe ソフトウェアが含まれます。ローカルネットワークを管理しない場合、次の手順を使用して組み込み Probe を無効にすることができます。

1. [System] > [Local Probe] に移動します。
2. トグルスイッチをクリックして組み込み Probe を無効にします。
3. [Save] をクリックします。

ネットワークの作成（オプション）

後で関連付ける Probe について、Dashboard のネットワークレコードを事前定義することができます。通常、各ネットワークは個別のサイトを表しますが、同じ場所に複数のネットワークを配置することもできます。新しいネットワークを作成するには、次の手順を実行します。

1. [Network] に移動します。
2. [Map View] で [Add Network] をクリックするか、[List View] で [+]（プラス）アイコンをクリックします。
3. ネットワークの名前、組織、デフォルトのデバイスグループを指定します。
4. 該当するフィールドにネットワークのアドレスを入力します。部分的な住所を入力すると、考えられる一致の一覧が表示され、リストから場所を選択できます。また、マップで場所をクリックすることもできます。
5. [Save] をクリックします。
6. 作成するネットワークごとに 1～5 の手順を繰り返します。

